⑥循環傷害を防ぐためSpO_2測定プローブは定期的に測定位置を変更してください。
⑦太陽光・体動・電磁波傷害などはSpO_2表示に影響を与えます。充分に注意してご使用ください。

12.電源の切り方

①患者さんからはずしてください。
②側面の電源スイッチをオフにしてください。

13. 使用後の点検

人工呼吸器チェックリストに従って、点検を実施してください。

14. 使用後のあとかたづけ

キュイラス・圧力センサチューブ等をはずして、洗浄・滅菌をしてください。
パーツの欠品、傷みを点検してください。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

◆loss of power(電源異常)アラームが作動した場合、電源を直ぐにオフにしてください。
◆アクセサリをRTXに取り付ける際は、取扱説明書の図を参照し、正しく取り付けてください［取扱説明書に記載されている以外の方法を取った場合や、指定以外の呼吸回路やアクセサリを使用した場合、RTXを損傷し、不安定な動作や作動不良の原因となります］。
◆問題が取扱説明書のトラブルシューティングチャートによっても解決できない場合、使用を直ちに止めIMI㈱が認定するサービスマンに連絡してください。

＜その他の注意＞

◆電源異常等により、アラームが作動しRTXの動作が停止した場合、患者さんに適切な処置をとってください。また、アラーム用バッテリの消耗を防ぐため、電源スイッチを直ぐオフにしてください。
◆機器を設置・保管する時には、次の事項に注意してください。
①水のかからない場所に設置・保管。また、本体の上に水を入れたものを置かないでください。
②気圧、温度、湿度、日光、ほこり、塩分・イオウ分などを含んだ空気などにより、悪影響の生ずる恐れのない場所に設置・保管。
③傾斜、振動、衝撃（運搬時を含む）などがない安定した状態となっていること。
④化学薬品の保管場所や可燃性麻酔ガスの発生する場所に設置、保管しない。
⑤長時間、高温となる場所に設置・保管しない。
⑥アース線が正しく接続できる壁面接地端子を備えている場所に設置・保管。
⑦電源の周波数・電圧及び許容電流の値（又は消費電力）が仕様を満たしている場所に設置・保管。
⑧換気のよい場所、におい、大気汚染のない場所に設置・保管。また壁やカーテンから10cm以上離す。
⑨気温0～45℃、相対湿度5～90%(非結露)の場所に設置。
◆本体を滅菌しないでください。内部パーツは滅菌に耐えられません。また、本体に洗剤や消毒・殺菌薬を吹きかけないでください。
◆RTXには防水性はありません。
◆フェノール、ジメチルアンモニウムクロライド、塩素を含む消毒・殺菌薬、2%を超えるグルタルアルデヒド溶液を本体のクリーニングに使用しないでください［使用した場合、プラスチック部分を傷めることがあります］。
◆本体清拭時に内部へ液体が入らないように注意してください。
◆RTXの清拭方法については取扱説明書に従ってください。
◆取扱説明書に記載されている場合を除き、センサは滅菌および殺菌できません。液体に浸すこともできません。
◆付属品・コード・カバーなどは、電源をオフにし、電源ケーブルをはずしてから清掃してください。
◆ケーブル類や回路、アクセサリ類に過度なテンションをかけないでください。
◆電源コードに損傷がなく、接続が正確・安全であることを確認してください。また損傷を防ぐため、電源コードの上に物を置いたり、人が歩く場所に電源コードを置かないでください。
◆スイッチの接触状況、画面、カバー、アクセサリ類などの点検を行い、損傷がないこと、機器が正確に作動することをご確認ください。
◆スイッチ類の操作に、先端の尖ったものを使用しないでください。
◆不安定な架台・テーブルの上に置かないでください。
◆塵埃の多い場所、高濃度の塩分を含む場所、腐食性ガスのある場所にRTXを置かないでください。
◆不安定な架台・テーブルの上に置かないでください。
◆換気口を塞ぐことのないように注意ください。塞いだ場合、内部換気が不足しオーバーヒート（過熱）します。
◆本体付属の取扱説明書・簡易取扱説明書・添付文書を必ず熟読され、不明な点があれば、取扱説明書・簡易取扱説明書・添付文書などで確認してから患者さんに使用してください。
◆他の医療機器との併用の場合、その添付文書を必ず参照してください。
◆ご使用に際しては、本体貼付のシール（「使用上の注意事項」等）を確認してください。
◆故障した時は修理は行わず、「故障、使用不可」などの適切な表示をしてください。同時に、IMI㈱が認定するサービスマンに連絡してください。
◆仕様通りに作動しない場合、使用を止め、IMI㈱が認定するサービスマンに連絡してください。
◆以下の状態が見られる場合、RTXを電源コンセントから外し、IMI㈱が認定するサービスマンに連絡してください。
a) 液体が内部に入った。
b) 雨や液体にさらされた。
c) 作動状態が明らかに変わり、点検が必要。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

1.貯蔵・保管方法

保管温度：－10～+50℃
保管相対湿度：5～90%(非結露)

2.耐用期間［自己認証（製造業者データ）による］

指定した保守点検及び消耗品の交換を実施した場合：本体7年
ただし、清掃、交換を含めて、取扱説明書通りに使用された場合。

【保守・点検に係る事項】

1.使用者による保守点検事項

＜洗浄／清掃／滅菌／交換＞

◆**本体**：適切な殺菌薬を使って外面を清拭してください。
◆**キュイラス・ワイドボアチューブ**：患者さん毎。同一患者さんの場合、少なくとも3日に一度はクリーニング。
◆**シール**：再使用不可。クリーニング・滅菌不可。
◆**ストラップ・SpO_2測定プローブ**：患者さん毎にクリーニング。
◆**圧力センサチューブ**：（エアウェイ用）患者さん毎に交換。
（キュイラス用／追加）必要時に交換。

＜作動点検＞

使用前に必ず正常にかつ安全に作動することを確認してください。

＜アクセサリの交換＞

チューブは少なくとも3年に1回、キュイラスは500時間毎に交換してください。

2.業者による保守点検事項

メーカーの定める以下の定期点検が必要です。
・1000時間又は6ヶ月毎
・2000時間又は1年毎
これらの点検はIMI㈱が認定するサービスマンだけが実施できます。
又、15000時間又は7年を越えた場合は、IMI㈱へお問合せください。

【包装】

本体：1台／箱
付属品：1式／箱

【主要文献及び文献請求先】

アイ・エム・アイ株式会社　人工呼吸器部
＊＊ **住所**：〒343-0824　埼玉県越谷市流通団地3-3-12
＊＊ TEL：048-968-4442
E-mail：support@imimed.co.jp

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売業者の名称：アイ・エム・アイ株式会社
住所：〒343-0824　埼玉県越谷市流通団地3-3-12
TEL：048-988-4411（代）
製造業者名（国名）：
製造元：UNITED HAYEK INDUSTRIES（MANUFACTURING）LIMITED（ユナイテッド　ハイエック　インダストリーズ（マヌファクチャリング）社）（英国）
製造所：UNITED HAYEK INDUSTRIES（MANUFACTURING）LIMITED（ユナイテッド　ハイエック　インダストリーズ（マヌファクチャリング）社）（イスラエル）

＊＊ 2011/08/01改訂（第9版）
＊ 2010/12/15改訂（第8版）

医療機器承認番号　21400BZY00382000

類別　機械器具06 呼吸補助器
高度管理医療機器　一般的名称　陰圧人工呼吸器　JMDN 17877000
特定保守管理医療機器　販売名　RTX　レスピレータ

【警告】

＜使用方法＞

◆医師の処方箋・指示に従い設定し、ご使用ください。
◆RTXは医師もしくは医師の指示のもと医療従事者が操作してください［RTXおよび体外式人工呼吸器の取り扱いを熟知していない場合、RTXを操作しないでください。熟知していない人が操作した場合、安全な作動状態を維持できません］。
◆患者さんに使用中は、必ず医療従事者が患者さんの状態を側で観察してください。
◆医師は、患者さんに他の人工呼吸器による換気を開始する際の基準を、あらかじめ明示しておいてください。
◆分泌物除去（Sクリアランス）モードを使用中で換気が必要な場合、他の人工呼吸器などを併用し、換気を行ってください。
◆RTXによる換気を実施した場合、ほとんどのケースで気道への分泌物の排出が促進されます。分泌物を適宜取り除いてください。
◆RTXおよびアクセサリが寿命に到達した場合、国内法規に従って廃棄処分をしてください。
◆患者さんが回路を外さないように注意してください［回路が外された場合、患者さんが危険な状態に陥ります］。
◆IMI㈱が指定する回路、アクセサリのみご使用ください。また回路の構成を変更しないでください［指定外の回路、アクセサリを使用した場合や構成を変更した場合、RTXは正常に作動せず、患者さんや機器に悪影響を与えることがあります］。
◆使用中は決して透明の圧力センサチューブ（エアウェイ用）を本体からはずさないでください。
◆キュイラスを常に清潔で乾燥した状態に保ってください。呼吸補助を受けている患者さんは、感染に対する抵抗力が低下していることがあります［清掃・消毒・乾燥されていなかったり、使用中キュイラス内に湿気が溜まった場合、キュイラスが感染源となり副作用を引き起こすことがあります］。
◆キュイラスを装着する際は、キュイラスに表示されている文字の上下が正しく読める方向に装着してください［上下逆に装着した場合、肺容量が減少することがあります］。
◆感電を防ぐため、アンチスタティック蛇管・チューブあるいは電気的伝導性のある蛇管・チューブを回路に使用しないでください。
◆SpO_2測定はMRIによって干渉を受けることがありますので、MRIでは使用しないでください。
＊ ◆SpO_2測定プローブはユナイテッド　ハイエック　インダストリーズ（マヌファクチャリング）社製品のみご使用ください。他社製品を使用した場合、RTXの作動不良の原因となります。また、接続する際はSpO_2測定プローブに損傷の無いことを確認し、何らかの損傷が見られる場合、患者さんに使用しないでください。
◆トリガ感度は患者さんの状態に合わせて適切に設定してください［トリガ感度の設定が鋭敏過ぎる場合、自発呼吸とは無関係に自動的にトリガがかかることがあります（オートトリガ）］。
◆使用中に何らかの問題が発生した場合、エラーメッセージが表示されていなくても、RTXの電源を切り電源コードを外して、使用を止め、IMI㈱が認定するサービスマンに連絡してください。
◆万一の作動不良に備え、充分なトレーニングを受けた方が換気状態を観察してください。患者さんの安全のためアラーム付きのカプノメータなどの生体情報モニタを併用してください。さらに、手動式人工呼吸器（アンブ蘇生バッグ）を患者さんの側に準備しておいてください（医薬発248号参照）。
◆クリーニング時は、その前に壁の電源コンセントから電源プラグを抜いてください。
◆使用している場所に飲み物や他の液体を置かないでください。液体が内部に入った場合、故障や作動不良やショート（短絡）による火災の危険性があります。
◆電気ショックを防止するためクリーニング前に、RTXをオフにして、電源コードを抜いてください。
◆RTXを長期間（4ヶ月以上）使用しなかった場合、少なくとも5時間は本体の電源をオンにして、アラーム専用内蔵バッテリを充電してからご使用ください。
◆アラーム作動時は、患者さんが危険な状態となっています。直ちに適切な処置を取ってください［適切な処置が取られなかった場合、重篤な傷害（例：死亡）を引き起こす可能性があります］。
◆アラーム音量は周囲の音より大きく、ナースステーションでも充分に聞こえることを確認してから、患者さんに使用してください。
◆アラーム消音中には必ず医療従事者が、患者さんの状態を観察してください。
◆作動不良アラームが作動している場合、全ての機械換気機能が停止します。
◆アラーム機能を定期的に点検してください（例：使用前点検、使用中点検、回路交換時等）。また、アクセサリの交換など回路を一時的に取り外した際に、アラーム機能が正常に作動することやアラーム音が聞こえることを確認してください。正常に作動しない場合、使用を中止し、直ちにIMI㈱が認定するサービスマンに修理をご依頼ください。
◆使用中は、常にアラームの設定が適切であることを確認してください。
◆アラームは発生原因を確認するまで止めないでください。
◆患者さんに使用する前に、人工呼吸器チェックリストによる使用前点検を必ず実施してください。何らかの異常が見られた場合、患者さんには使用せず、直ちにIMI（株）が認定するサービスマンにご連絡ください［使用した場合、重篤な傷害（例：死亡）を引き起こす可能性があります］。
◆機械系統または電気系統の問題が検出された場合、直ちに使用を止めてください［問題のあるまま使用した場合、患者さんに傷害を与えることがあります］。
◆自己診断を実施する際は、患者さんへの接続を外してから行なってください［自己診断中、RTXはガスを供給しません］。
◆患者さんに使用中は、人工呼吸器チェックリストによる使用中点検を必ず実施してください。何らかの異常が見られた場合、使用を中止し、直ちにIMI㈱が認定するサービスマンにご連絡ください［使用を継続した場合、重篤な傷害（例：死亡）を引き起こす可能性があります］。
◆使用前、使用中、使用後はそれぞれ、「人工呼吸器チェックリスト」に従って点検してください。点検や作動中に何らかの異常が見られる時は直ちに使用を止め、IMI㈱が認定するサービスマンにご連絡ください［患者さんに重篤な傷害を起こす可能性があります］。
◆正常な作動のためには定期的な保守点検が必要です。適切な保守点検が行われなかった場合、重篤な傷害（例：死亡）を引き起こす可能性があります。保守点検の詳細については、取扱説明書をご参照ください。
◆使用される前に、添付文書及び取扱説明書を熟読され、内容をよく理解しておいてください。
◆機器に液体がかかったり、内部に水滴が付くような環境での使用・保管はしないでください［機器内部に水が入ったり、水滴が付いた場合、作動停止や故障の原因となります］。
◆アースのとれたAC100Vのホスピタルグレードの電源コンセント（3P）を使用してください［アースがとれていない場合、作動不良の原因となり、また、RTXの損傷により、RTXの導電部を通じて感電の可能性があります］。
◆RTXは壁の電源コンセントを使用してください。テーブルタップなどのタコ足配線での使用、同一コンセントで他の電気機器を使用することはお止めください。
◆近くで雷が発生した場合、RTXの作動に影響を与えることがあります。
◆供給電源電圧の低下や変動は、作動不良の原因となります。
◆RTXはユーザーや患者さんが過剰なリーク電流にさらされないよう設計されています。ただし、外部装置が接続されている場合、このことは必ずしも保証されません。RTXに外部装置を接続した場合、それらの機器からの過剰なリーク電流を防ぐため、保護アースに正しく接続してください。
◆火災などの発生を防止するため、指定されたヒューズだけを使用してください。ヒューズの交換はIMI㈱が認定するサービスマンが実施してください。
◆作動不良や火災を防止するため、電源コードを束ねたり、折り曲げたりして使用しないでください。

取扱説明書を必ずご参照ください。

C0137-1

◆以下の場合、電源からRTXを外し、IMI㈱が認定するサービスマンに点検または修理をご依頼ください。
①電源コードが断線・破損。
②RTXを落下、転倒させた。
③RTXから煙・異臭・異音の発生。
◆キュイラスは患者さんに合わせて適切なサイズを選択し、正しく装着してください。装着後は適宜接触部に異常がないことを確認してください［患者さんに合っていないサイズのキュイラスを使用、あるいは接触部に異常が見られるまま長期間使用した場合、接触部の圧迫により皮膚傷害（褥瘡等）を引き起こす可能性があります］。

【禁忌・禁止】
＜併用医療機器＞
◆MRI、除細動器、電気メスと併用しないでください。
＜使用方法＞
◆コンピュータ、無線通信設備、エレベータの動力源など、電磁波を発生させる機器が周辺にない場所で使用してください。また、RTXの使用中、パソコン、ゲーム機、携帯電話などの電磁波を発生させる機器を使用しないでください［電磁妨害波が存在する環境下では誤作動を起こす可能性があります］。
◆爆発の危険性がありますので、可燃性ガスのある環境で使用しないでください。
◆使用される方への電気ショックを防ぐとともに、本体を損傷させないため、本体のカバーを開けないでください。修理をする時は、IMI㈱が認定するサービスマンに依頼してください。
◆使用中は青色の圧力センサチューブ（キュイラス用）を本体及びキュイラスから絶対に外さないでください［外した場合、作動不良の原因となります］。
◆素肌に直接キュイラスを装着しないでください。必ず衣服の上から患者さんに装着してください。
◆使用中の火災を防止するため、電源コードを束ねたり、折り曲げたりしないでください。
◆お子様をRTXに近づけないでください。
◆RTXのコネクタと患者さんに同時に触れないでください［規格以上のリーク電流が患者さんに流れる危険性があります］。
◆修理をする時は、IMI㈱が認定するサービスマンにご依頼ください。それ以外の方が修理を行うことは絶対にお止めください。
◆正常に作動していない場合や仕様内で作動していない場合、使用しないでください。ユーザーによる修理は行わず、故障中などの適切な表示を行い、直ちにIMI㈱が認定するサービスマンに点検、修理をご依頼ください。
◆可燃性ガスのある環境や高圧治療室で使用しないでください。使用した場合、爆発や火災を起こす危険性があります。また、酸素を使用する場合、発火元となるものにはRTXを近づけないとともに、発火防止のためオイルやグリスが表面に付着しないようにしてください［酸素は燃焼を加速します］。
◆けがや電気ショックを防ぐとともに、RTXの損傷を避けるため、分解、改造は行なわないでください。修理をする時は、IMI㈱が認定するサービスマンにご依頼ください。
◆アラームを設定しない状態で、RTXを作動させないでください。すべてのアラームを設定し、安全な作動が保証されるようにする必要があります。すべてのアラーム値が設定され、作動することを確認してください。

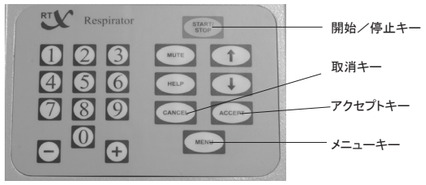
【形状・構造及び原理等】
1.構成
本体、キュイラス、キュイラスシール、キュイラスストラップ（成人用、小児用）、ワイドボアチューブ（成人用、小児用）、圧力センサチューブ（キュイラス用/エアウェイ用）、SpO_2測定プローブ、テストプラグ、電源ケーブル、小児用アダプタ、添付文書、取扱説明書
2.電気的定格
AC100V、50/60Hz、500VA
3.寸法及び重量
370（幅）×260（奥）×185（高）mm、9kg
4.原理
キュイラス内の圧を陰圧にした後、圧を平圧に又は陽圧にすることで呼吸補助・調節呼吸・同期（トリガ）・呼気を行います。キュイラス内の圧を陰圧にすることで胸郭が拡大し、胸腔内が陰圧となり、外気が肺に吸い込まれます。呼気時には、キュイラス内の圧を平圧に、又は陽圧にすることで、肺及び胸郭の収縮を促進させ、肺胞内のガスを肺外に呼出。キュイラス内の圧の調整及び変更は、青色の圧力センサチューブ（キュイラス用）を介してのフィードバックに基づいて行われます。吸気時および呼気時のキュイラス内の圧設定はパネルを操作することにより行われます。

【使用目的、効能又は効果】
本品はキュイラス（チャンバ）を用いて胸郭の外に陰陽圧をかけることにより非侵襲的に呼吸の補助を行う、胸郭外陰陽圧式の体外式人工呼吸器です。SpO_2測定プローブを使用して経皮的動脈血酸素飽和度を測定することができます。

【品目仕様等】
最大吸気圧／最大呼気圧
　－49hPa／＋49hPa（－50.0cmH_2O／＋50.0cmH_2O）
キュイラス圧精度
　測定範囲：－49hPa～＋49hPa
　　（－50.0cmH_2O／＋50.0cmH_2O）
　精度　　：±3%＋2
エアウェイ圧精度
　測定範囲：－24.5hPa～＋24.5hPa
　　（－25cmH_2O～＋25cmH_2O）
　精度　　：±3%＋2
換気回数
　6～1200回／分
　精度　　：±5%＋2
I/E比
　1.0:6.0～6.0:1.0
　精度　　：±5%＋2
SpO_2
　SpO2　　：70%～100%
　精度　　：±1%＋1（90%～100%）
　　±2%＋1（80%～ 89%）
　　±3%＋1（70%～ 79%）
　パルス　：30～170回／分
　精度　　：±3%＋1
モード
　モニタモード、持続陰圧モード、コントロールモード、レスピラトリトリガモード、呼吸同調モード、分泌物除去モード

【操作方法又は使用方法等】
1.使用する前の注意
①スイッチ・キー・画面・カバー・アクセサリなどを点検し、損傷がなく正常に作動することを確認してください。
②アースが完全に接続されていることを確認してください。
③コードの接続が正確で安全であることを確認してください。
④患者さんに接続する回路に異常のないことを点検してください。
⑤アラーム用内蔵バッテリが充分に充電されていることを確認してください。
2.キュイラスの準備
①リークが無い条件で、使用する患者さんにとって最も大きいサイズのキュイラスを用意してください。サイズはキュイラスに表示されています。患者さんの身長も考慮してキュイラスを選択してください。長身であったり、体重／身長の割合が高い患者さんの場合、より大きなキュイラスが必要です。小さすぎるキュイラスの場合、動きが制限され、肺容量が減少します。

②キュイラスに適合するキュイラスシールを選択してください。シールに示されるサイズとキュイラスのサイズが一致することを確認してください。
③シールをキュイラスに取り付け、シールの接続部がキュイラスの上の真ん中に位置していることを確認してください。キュイラスの縁がシールの下側にあるスロットの中にはまるようにしてください。キュイラスを正面から見て、上側の真ん中からシールをキュイラスの縁に取り付け始めます。シールをストラップのある部分まではめてください（両側共に）。シールはストラップも覆うようにしてください。シールが上側と両側に取り付けられたならば、キュイラスを逆さにし、シールの残りの部分をキュイラスに取り付けてください。
④シールをキュイラスに取り付け終わったら、取り付け具合を微調整してください。ストラップが完全に覆われるように注意してください。
3.本体の接続
①RTXを患者さんの近くの安定した平面に設置してください。蓋を持ち上げ、画面が見えるようにしてください。
②本体に電源ケーブルを接続してください。電源プラグをAC100V（50/60Hz）の電源コンセント（アース付）に挿入してください。
③ワイドボアチューブを本体に取り付けてください。
④圧力センサチューブ（青）を本体のCUIRASSコネクタに接続してください。
⑤エアウェイ（気道内）圧力を測定する場合、圧力センサチューブ（透明）を本体のAIRWAYコネクタに接続してください。
⑥本体のSpO_2コネクタにSpO_2測定プローブを接続してください。
4.作動の開始
①患者さんにチューブが付いていないことを確認してください。
②本体の電源スイッチをオン。自己診断に30秒かかります。アラームインジケータが一度点滅し、アラーム音が聞こえます。
③自己診断で異常が見つかった場合、エラーメッセージが対処方法とともに表示されます。
④MONITOR（モニタ）モードが表示されます。同時に、アラーム設定が右側に表示されます。
⑤アラーム値が0でない場合、アラーム音が聞こえます。MUTE（消音）キーを押して、アラーム音を停止させ、設定やSpO_2測定プローブ・チューブを接続してください。
5.キュイラスを患者さんに接続
キュイラスはわきの下から最低でも臍下まで覆っている必要があります。緩やかで装着に適した衣服の上から患者さんに正しい方向で取り付けてください。逆方向では患者さんの肺容量が減少します。
①患者さんをかかえ上げ、患者さんの下にストラップを挿入してください。
②キュイラスを広げ、患者さんの胸部と腹部に取り付けてください。キュイラス両端からゆっくり手を離し、患者さんにつけます。
③ストラップをキュイラスに回し、正面でしっかりと締めてください。
④指をキュイラスシールに沿って動かし、腹部・わきの下・胸部でのリークの無いことを確認してください。シールがしっかりと患者さんに触れていること、絞めすぎていないことを確認してください。
6.キュイラスを本体に接続
①ワイドボアチューブをキュイラスの中央のポートに挿入してください。もう一方の端をRTX本体に挿入してください。
②圧力センサチューブ青（キュイラス用）をキュイラスの小さな穴に接続してください。
③SpO_2測定プローブを患者さんとRTX本体に取り付けてください。



7.モードの設定
MENU（**メニュー**）キーを押し、画面からMode Selection（**モード**）を選択し、ACCEPT（**アクセプト**）キーを押して、モード選択画面に入ります。**モード**を選択し、ACCEPT（**アクセプト**）キーを押して、患者さんに合わせてモード設定します。
①MONITOR（モニタ）モード
　キュイラス、エアウェイ、SpO_2のデータを表示します。
②CONTINUOUS NEGATIVE（持続陰圧）モード
　キュイラス内圧を連続陰圧にし、患者さんの肺容量を増加します。
③CONTROL（コントロール）モード
　Frq（換気回数）・I/E比・Ins（吸気圧）・Exp（呼気圧）を調節することによって、吸気と呼気を完全にコントロールします。
④RESPIRATORY TRIG（レスピラトリトリガ）モード
　トリガによって呼吸補助が行われます。換気回数は患者さんの呼吸数又は設定最小Frq（換気回数）。トリガ時にはI/E比・Ins（吸気圧）・Exp（呼気圧）も設定値通り作動します。
⑤RESPIRATORY SYNC（呼吸同調）モード
　自発呼吸に完全にシンクロ（同期）。換気回数・呼吸波形は患者さん自身の自然な呼吸にあわせて調節されます。トリガ時にはIns（吸気圧）・Exp（呼気圧）も設定値通り作動します。
⑥S.CLEARANCE（分泌物除去）モード
　胸部理学療法として肺からの分泌物の除去に使われます。
　A）VIBRATION（**バイブレーション**）モード
　　分泌物の排出を促進します。
　B）COUGH（**コフ：咳**）モード
　　咳と同様の効果によって、分泌物の排出を促進します。
8.パラメータの設定
MENU（**メニュー**）キーを押し、画面からParameter Settings（**パラメータ設定**）を選択し、ACCEPT（**アクセプト**）キーを押して、パラメータ設定画面に入ります。必要項目を選択し、ACCEPT（**アクセプト**）キーを押して、アラーム設定画面に移ります。
①MONITOR（モニタ）モード
　設定なし。
②CONTINUOUS NEGATIVE（持続陰圧）モード
　陰圧を設定します。
③CONTROL（コントロール）モード
　Frq（換気回数）・I/E比・Ins（吸気圧）・Exp（呼気圧）を設定します。
④RESPIRATORY TRIG（レスピラトリトリガ）モード
　MIN BACKUP（最低バックアップ）、I/E比、Ins（吸気圧）、Exp（呼気圧）、TRIGGER SOURCE（トリガソース）、SENSITIVITY（トリガ感度）を設定します。
⑤RESPIRATORY SYNC（呼吸同調）モード
　MIN BACKUP（最低バックアップ）、Ins（吸気圧）、Exp（呼気圧）、TRIGGER SOURCE（トリガソース）、SENSITIVITY（トリガ感度）を設定します。
⑥S.CLEARANCE（分泌物除去）モード
　A）VIBRATION（**バイブレーション**）モード
　　FREQUENCY VIBRATION（**振動数**）、**INS PRESSURE VIBRA-**TION（振動吸気圧）、TIME VIBRATION（振動時間）を設定します。
　B）COUGH（**コフ：咳**）モード
　　FREQUENCY Cough（コフ回数）、INS PRESSURE Cough（コフ吸気圧）、EXP PRESSURE Cough（コフ呼気圧）、I/E RATIO Cough（コフI/E比）、TIME Cough（コフ時間）、REPEAT COUNT（反復回数）を設定します。
9.アラームの設定
MENU（**メニュー**）キーを押し、画面からAlarm Setting（**アラーム設定**）を選択し、ACCEPT（**アクセプト**）キーを押して、アラーム設定画面に入ります。アラーム値を設定し、ACCEPT（**アクセプト**）キーを押して、スタンバイ状態に移動してください。
①INS PRESSURE LIMITS（吸気圧上限/下限）
②EXP PRESSURE LIMITS（呼気圧上限/下限）
③APNOEA（無呼吸）
④RESP.RATE High（換気回数上限）
⑤SpO_2（Sat）% High（SpO_2上限）
⑥SpO_2（Sat）% Low（SpO_2下限）
⑦SpO_2 Pulse High（SpO_2上限）
⑧SpO_2 Pulse Low（SpO_2下限）
10.作動開始
モード、パラメータ、アラームの設定が終わり、スタンバイモードに入ったならば、Start/Stop（スタート／ストップ）キーを押して、換気を開始してください。
11.使用中の点検
添付されている人工呼吸器チェックリスト「2.使用中の点検手順」に従って、点検してください。
①治療に必要な時間・量を超えていないこと。
②RTX全般及び患者さんに異常のないことを絶えず観察してください。
③RTX及び患者さんに異常が発見された場合、患者さんに安全な状態でRTXの作動を止め、適切な措置を実施してください。
④RTXに患者さんが触れることのないように注意してください。
⑤電磁波による誤動作に注意してください。